

令和5年9月4日開催の「米軍再編に係る千歳基地への 訓練移転に関する連絡協議会」での口頭要請事項及び回答

●北海道、千歳市、苫小牧市の三者で構成する

「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡会議」としての要請

連絡会議として、重ねてのお願いとなるが、協定の遵守、訓練情報の提供など、先日要請した8項目について、改めてお願いします。

《回答》

連絡会議から要請のありました8項目についての再度の要請につきましては、先般の連絡協議会において、お答えさせていただいたとおりですが、協定を遵守するとともに、航空機の安全確保及び米軍人の規律の維持について、改めて当局から米軍に申し入れを行うこと、米軍と調整し可能な限りの情報提供に努めるなど、これまでと同様、周辺住民の安心・安全のために最大限努力し、万全の体制で臨みたいと考えています。

●苫小牧市の個別要請

- 1 当市では毎年、訓練移転元である、嘉手納飛行場周辺の沖縄市、嘉手納町、北谷町に対し、負担軽減に関する調査を実施しているが、「外来機の飛来により負担軽減の実感がない」との声があるため、外来機の飛来抑制に対する具体的な対策を行うこと。

《回答》

日米両国は、航空機の訓練移転を行う期間中、沖縄の飛行場における米軍の訓練活動の影響について配慮することとしており、防衛省としても、訓練移転の都度、米側に対し配慮要請を行っています。

その上で、嘉手納飛行場に所属する航空機の訓練移転について、本年2月に実施された訓練移転では、F-15戦闘機12機等が、約3週間沖縄を離れることになりました。

その間、訓練移転がなければ、沖縄で実施されることとなる訓練の時間を含めた米軍機の運用全体が削減されたとの効果があったものと考えています。

また、嘉手納飛行場の騒音実態の把握に継続的に努めており、実態を踏まえて、

- ・ 米軍に対し、騒音規制措置の遵守や、地元の重要な行事に配慮するよう申し入れを行い、
- ・ さらに、住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る各種施策を通じて、周辺住民の方々の御負担を可能な限り軽減できるよう努めるなどの措置を講じているところ です。

いずれにしましても、防衛省としては、今後とも米側に対し、嘉手納飛行場における騒音の軽減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、可能な限り地元の負担軽減に努めてまいります。

2 沖縄の負担軽減について、目に見える形での検証を要請しているが、その回答において、令和2年度までは一例として、騒音測定値や平均離着陸回数を比較した数字が示されていたが、前回からその回答がないため、具体的な数字を示すこと。

《回答》

これまでに、嘉手納飛行場に所在する航空機の訓練移転については計49回、普天間飛行場に所在するオスプレイ等の訓練移転については計18回実施したところです。

これらの訓練移転により、本来は沖縄で行われる訓練の一部が本土等に移転されたことで、沖縄における駐留及び訓練時間が削減されることから、一定程度の負担が軽減されていると考えています。

防衛省としては、目に見える形での沖縄の負担軽減が図られるよう、今後も訓練移転を着実に積み重ねるなど、全力を挙げて取り組んでまいります。

3 今回の訓練では、三沢基地所属のF-16が参加するが、令和3年11月30日に燃料タンク投棄事案が発生していることから、安全確保に最大限配慮するとともに、原因や今後の対策などについて、情報提供すること。

《回答》

令和3年11月30日に発生した米空軍三沢飛行場所属F-16戦闘機による燃料タンク投棄について、米側からは、

- ・ 本事案は、油圧が急激に低下したことによるエンジン出力の低下によるものであり、
- ・ エンジン及び全ての関連部品の点検・交換を行ったとの説明を受けております。

いずれにしましても、航空機の運用に当たっては、安全の確保が大前提であり、航空機による事故は地域の方々に不安を与える、あってはならないものであると認識しています。

当局としては、訓練部隊に対し、航空機の点検・整備の確実な実施や安全管理に万全を期すよう求めてまいります。